

〔 一般教養科 〕

〔 区 分 B 〕

理工系学生のための法学概論

岩倉秀樹* (共著)

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

学術図書出版社(2000)

第1章第5節法の体系と分類、第1章第6節法源、および、第4章憲法を分担執筆した。法秩序の一体性を確保するための形式的効力・後法優先・特別法優先の各原則、実定法を体系的に理解するうえで有用な各種の法の分類、および、裁判の基準として法源となる成文法・不文法について論考した。また、立憲主義と統治機構（憲法とは、日本憲法史、日本国憲法の統治機構）、基本的人権（人権の憲法的保障、包括的人権、精神的自由、経済的自由と生存権）、平和主義（立憲平和主義と憲法9条、憲法9条をめぐる裁判）の各項目別に、わが国の憲法全般について判例中心に論考した。

〔 区 分 C 〕

An Analytical Study of Sexism in an EFL Textbook in Visual Terms as well as in Representations of Professions

篠原 學*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第36巻、pp 103-117 (2000)

ある英作文教科書に見る性差別の実態を研究したものであるが、挿し絵をはじめ、人称代名詞にも、日本社会の男性優位の実態が明らかにされている。

英語の諺に関する一研究 (2)

鴻上政明*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第36巻、pp119-133, (2000)

英語の諺のうち数字・人間・植物・食物を含むものを分類した。

1. 数字篇

Kill two birds with one stone. 一石二鳥。

A wonder lasts but nine days. 人の噂も75日。

2. 人間篇

A drowning man will catch at a straw. 溺れる者はわらをもつかむ。

Like father, like son. この父にしてこの子あり。

3. 植物

It is a folly to strew roses amongst swine. 猫に小判。

Money does not grow on trees. カネの生る木はない。

4. 食物

It is no use crying over spilt milk. 覆水盆に返らず。

An apple a day keeps the doctor away. 一日一個のリンゴで病気知らず。

生命倫理学入門（２）

谷本修治*

*新居浜工業港等専門学校一般教養科

新居浜工業港等専門学校紀要第 36 巻, pp135-145, (2000)

脳死の問題をまとめた前回の「生命倫理学入門（１）」に続いて、本論では脳死を前提として成り立つ臓器移植の問題をまとめた。

臓器移植をめぐる問題としては、脳死の問題、医療の本来の使命である救命とのかねあいの問題、生体移植の問題、高額医療費負担の問題、臓器優先権の問題、臓器提供の決定の問題、提供臓器の不足の問題、術後の問題等がある。

忘れてはならないことは、臓器移植の本質は、人間機械論を思想とする生のエゴイズムに他ならない、ということである。

平成 9 年度における欠課率と成績との相関 - 1 年生と 2 年生の場合 -

塚野 修*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要 第 36 巻, pp147-159, (2000)

平成 9 年度の本校 1 年生と 2 年生の欠課率を算出し、さらに、欠課と成績との相関を調べた。その結果、1 年生の平均欠課率は 2.1%, 2 年生は 3.3% であることがわかった。1 年生については、5 学科のうち、電気工学科と電子制御工学科の欠課率は低く、生物応用化学科と材料工学科の欠課率が高かった。2 年生については、電子制御工学科と工業化学科の欠課率が低く、機械工学科、電気工学科と材料工学科は高かった。

また、2 年生について、1 年次と比較してみると、機械工学科と工業化学科の欠課率に変動が無かったが、電気工学科、電子制御工学科と材料工学科の欠課率は 1.5 倍から 1.8 倍程度増加していて、学年進行と共に欠課が増えることが裏付けられた。

欠課と成績との相関も見られたので、各学年、各学科ごとに指導の目安となる欠課率を算出した。

ハイデッガーにおける「最後の神 (der letzte Gott)」の問題

神尾和寿*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第 36 巻, pp161-169, (2000)

「実存論的分析論」を主導的方法とした『有と時』は挫折し、前期ハイデッガーの思索は、根本的な転換を迫られる。後期ハイデッガーの「性起」の思想を迎えるにあたって、この時期、膨大な覚書『哲学への寄与』が記された。本論では、この著に見られる「有の真理の性起」と「最後の神」との関わり合いを追求し、その問題点について考究した。

中国の哲学について（二） - 銭穆『現代中国學術論衡』訳注稿

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第 36 巻, pp180-188, (2000)

本稿は、銭穆著『現代中国學術論衡』に収められる「略論中国哲学（二）」を邦訳し、注釈を施したものである。銭穆の本論文は、中国哲学概論として役立つものであるとともに、銭穆自身の思想的立場も鮮明に表明され、銭穆研究においても重要なものである。